

今、広葉樹がおもしろい

～岩手を取りまく話題～

1 岩手県の広葉樹生産

近年、岩手県の広葉樹生産量は、減少傾向にありましたが、本稿ではその復調の兆しを紹介します。

岩手県の広葉樹生産のようすを図1～4に示しました。図1は、針葉樹と広葉樹のそれぞれの生産量の推移を示したものです。岩手県は、全国の中でも1990年代初頭まで針葉樹の生産よりも広葉樹の生産の方が多かったという特徴があります。

図2は、所有形態別の生産量の推移をみたもので、広葉樹生産の減少要因は国有林からの伐採の急激な減少であることを示しています。この時期は、日本でも自然環境保護の機運が高まり、自然が比較的豊かな奥地に位置する国有林の広葉樹伐採は、厳しい世論にさらされました。当時、岩手県では、広葉樹によって生計をたてていた人たちも多く、国有林からの伐採が急激に縮小した後のおよそ10年間は生産対象地を民有林に移しながら、広葉樹の生産・加工を維持していたことも図2からわかります。しかしながら、国有林の生産量には届かず、また戦後造林地も主伐の時期を迎える中、岩手県も他県にもれず広葉樹から針葉樹の生産に移行します。

図3は、岩手県の広葉樹は、家具や建材といった用材、炭やぼた木に利用されている他、8割がチップ用に加工されている様子を示したものです。そのチップは、製紙用の原料となるものでしたが、図4をみると、2013年には針葉樹を原料とするチップが広葉樹を原料とするチップを上回っていることがわかります。

これは、東日本大震災以降、これまで以上に再生可能資源としての木材利用が見直され、木質バイオマス発電所向けに燃料用となる針葉樹の生産が増えたことを表しています。こうしてみると、広葉樹はその役割が小さくなってきたようにもみえます。一方で、広葉樹に復権の兆しがあることも見逃せません。

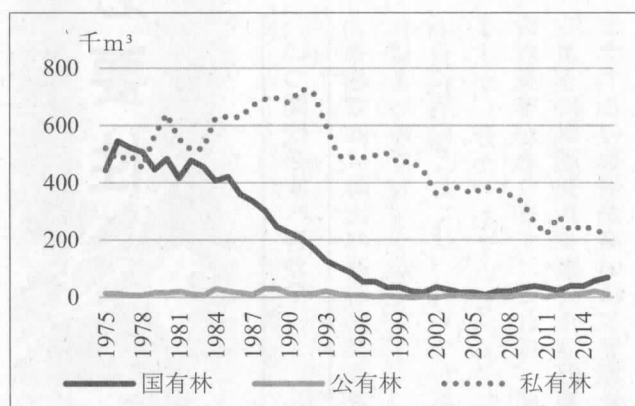


図2 所有形態別広葉樹生産量の推移

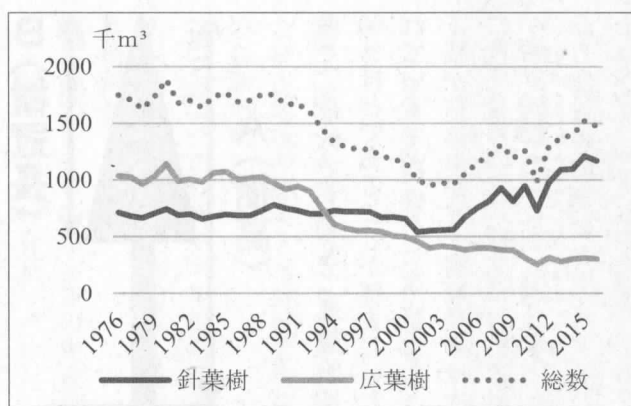


図1 針葉樹広葉樹別生産量の推移

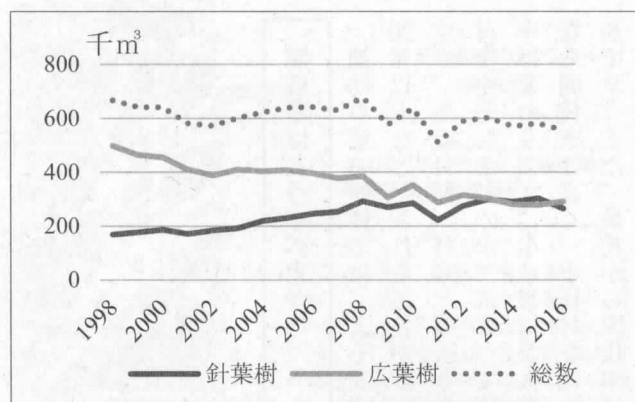


図4 針葉樹広葉樹別チップ生産の推移

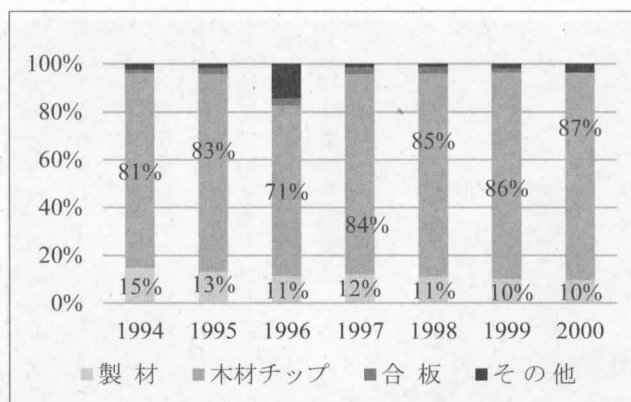


図3 針葉樹広葉樹別生産量の推移

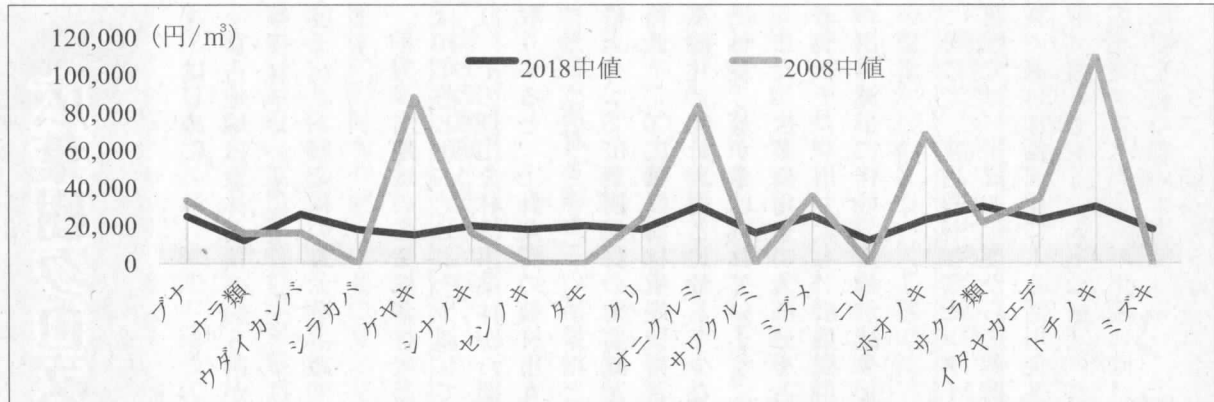


図5 製材用中値丸太の価格変化 (2008/2018)

2 国民の暮らしと広葉樹

岩手県森林組合連合会盛岡木材流通センターによる原木市売価格の動向をみますと、広葉樹の売買価格は微増ですが年々上昇傾向にあります。さらに、かつて広葉樹は樹種の特徴(硬さ、粘り、軽さ、色、艶など)で用途が決まっていたのですが、消費者は自分の好きな樹種をフローリングに用いるというような暮らし方を楽しむような変化が起きているようです。図5は、フローリング材に向く丸太の10年前と最近の市売りの平均価格の変化を示したものです。10年前より、樹種の違いによる価格差が小さくなっていることから、消費者の材種を選ぶ基準が多様化していることが分かります。

3 注目される岩手県広葉樹

EU諸国で発達した特定の産地と品質等の結びつきのある農林水産物等の名称を法的に保護する「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律」が日本でも2014年に制定されました。登録商品名を用いた類似品の流通を防ぎ、当該商品の生産者の利益の増進と需要者からの信頼を保護することが目的です。その法律に基づいて運用

されている「地理的表示保護制度(通称:GI)」に、2018年はじめて特用林産物の登録がなされました。それが同年8月登録の「岩手木炭」「岩手切炭」(英語名: Iwate Charcoal)と、続く12月登録の「浄法寺漆」(英語名: Joboji Urushi)になります。

GI商品の炭を生産している久慈市の(有)谷地林業を訪問した折、長年の顧客がいることを知り、その商品の確かさを実感しました。ちなみに(有)谷地林業は、長年培ってきた製炭技術が認められ農林水産大臣賞受賞者も擁しています。

紙幅の関係で詳しく紹介できませんが、最近、大消費地では国産広葉樹の家具や器を扱う店舗そのものが増えていきます。加工される地域は様々ですが、原料となる広葉樹が岩手県産であることが多々あります。

また、屋内空間の広葉樹利用の提案も考えた「おもちゃ美術館」も来年花巻にオープン予定です。さらに、地元資源を生かしたいと広葉樹の利用を実践する地域の若い方やU・I・ターンの方々もいます。都市地域の森林環境譲与税の使途は、木材の利用や普及に多くの予算が配分される方向にある中、広

葉樹は都市と地方の資金循環を繋ぐことにもなりそうです。

4 「広葉樹並材生産」の着想

フローリング材となる樹種の多様化、利用の画一化、そして価格の平準化は、針葉樹合板や集成材等にみるいわば「広葉樹並材生産」ともいえる価値(価格帯)として注目されます。今後の広葉樹施業のあり方や生産流通の仕組みをも左右するかも知れません。

謝辞

岩手県チップ協同組合瀬川誠一郎理事長、ならびに岩手県森林組合連合会盛岡木材流通センター田口清治木材部部長はじめ関係者の皆さまには、貴重なご意見を頂きました。ここに御礼申し上げます。

森林総合研究所東北支所

大塚 生美

019(641)2150